

27、

唯説弥陀本願海

若い学徒よ、憂宗の青年僧よ!! 現在の浄土真宗を何と見る。社会人の尊敬を喪い、
 門信徒の信頼を失い、徒食している厄介者に扱われ、信施を粗末にした為衣食に困り、
 仏意に背く行いをして為に不倶者は生まれ、模範を示さなければならぬ寺院が悪
 の華を咲かせ、来る日も来る日も火の車、自分に飲む余裕がないから 名目を付けては
 ○○費、○○費で飲み歩き、囲碁やマージャンで日を暮し、遠方から講師を入れると損
 がいく、どんぐりが勤め合いをする為に布教は低下し、信徒には愛想つかされ、参詣が
 少ない上がり物が無いから寺が食えない。己に信仰がないと言う事がまだ判らないのか。
 仏罰が現在であたっている事に気がつかないのか。之と反対であつたら宗 教は栄える

のだが、法施をして見よ、財施は影の形に添う如しだ。

若い求道者よ!! 法龍が血汐の跡を残して置くから 正法を傳持しなければならぬ

いぞ。八万の法蔵は唯説弥陀本願海に納まるのだ。唯名号六字に帰するのだ。

釈尊が証を開いて自内証を説法されたのが華嚴經、文殊、普賢の二菩薩は聞いたが、

其他の聖衆は唾の如く聾の如しであつたから、程度を低めて阿含經、方等經、般若

經と四十余年間根機を整えて、今自力の出世本懷たる法華經を説く真最中に王舎城の

悲劇により韋提希夫人の請を入れて、王宮に降臨して觀無量壽經を説かれ、靈鷲山に

歸りて法華經の残りを説かれたから 法華と念仏は同時の經と言うのだ。最後に涅槃の

都に入らるる時に涅槃經を説かれたのである。

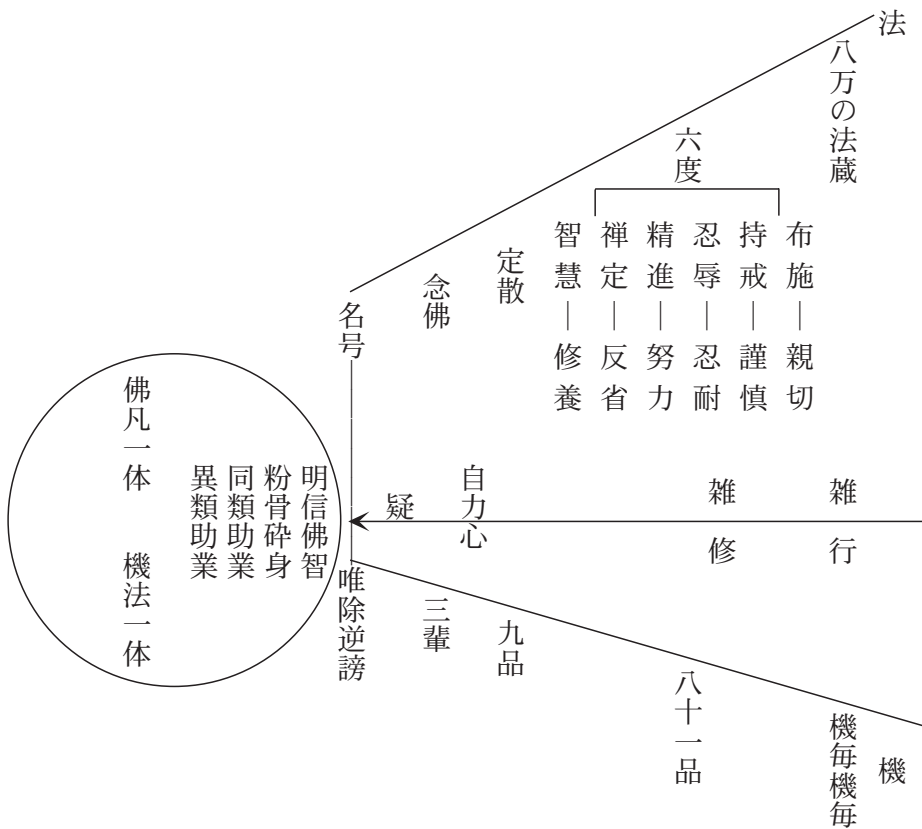
華嚴と法華と涅槃とは自力の三大經であり、他力の三部經に合すれば大經、觀經、

小經と一致するのである。

華嚴經と涅槃經は法華一乘の經に摂して自力の出世本懷の經とするけれども、それ

は月待つまでの手ずさみであり、根機が熟すれば岸上に戯れる子供より、水中に溺れ

ている子供を救う、仏の慈悲を顕して観經を説き、小經に入り、遂に大經に歸して
自力の出世本懷は遂に他力の出世本懷に歸するのである。これを唯說弥陀本願海と教え
られたのである。而し私は獨特の味を以て教化したいと思う。
図示すれば



釈尊一代の仏教を法の側から言えば八万の法蔵、この内容を縮刷すれば六度万行。
布施とは慳貪の反対で普施、布施とは財施、法施、無畏施、物に対し人に對し親切でなければならぬ。

持戒とは 破戒の反対で身口意の三業を慎む。五戒八戒十戒、二百五十戒、具足戒などあつて自己の言行を慎む事である。

忍辱とは 瞋恚の反対で 人に對し物に對し事に對し時に對し 総てに忍耐強く忍ぶ事である。

精進とは 懈怠に對し 表裏相応して自己の使命を果たし、終始一貫努力する事である。

禅定とは 散乱に對し心が静寂でなければ正しき判断を失うから反省する事である。
智慧とは 愚痴に對し仏智を諦得し、因果の道理を明らかに見、修養せよと言う事である。

この六度は道徳的の言葉に直して言えば 人に親切で言行一致で忍耐強く努力して反

省し修養する者に落伍者はいないのだ。それに世の中の人々は慳貪邪見で施を知らず、言う事と行う事が反対で一寸の事に怒りをなし放縦な生活をして反省もなく修養もしない者に成功する筈がないではないか。

この六度を更に定散二善に納むれば、定は息慮凝心で禪定が入り、散は廃悪修善で其の他の五徳が納まる。更に定散二善は念仏一行に歸し、遂に名号の独り働きとなる。釈尊一代の仏教を機の側から言えば、八万四千の法門を受けるのだから機毎機毎であるけれども、法然上人は選択集に八十一品と教え、観無量寿経では定散二善と九品を説き、大経では三輩共に念仏を明かし、遂に第十八願に來たつて十方衆生一人残らず逆謗の一機となり、一機一法の名号一法と逆謗一機が一体に成つた処で、信機信法の二種深信とも、絶対不二の法と絶対不二の機とが一つに成つたとも、攝取されたとも、開発したとも言うのだ。この境地、この極意は人間の知識や学者の判断や想像で伺い知る処ではない。不思議の仏智の作用く世界で、これを唯説弥陀本願海とも、八万の法蔵を読み破つたとも言うのである。我々の我執を調熟の光明で淨尽し、逆

傍聞提の素地の儘が

摂取不捨の利益を蒙つた無我の境地、

全く他力廻向の賜物である。